



新実習地の湖に映える富士山

《目 次》

平成13年度総会・懇親会……………2	工学会（農業工学科・生物環境工学科）…13
校友会の新たな方向・日大カードの誕生まで…3	FT会（食品工学科・食品科学工学科）…14
期待される新実習地……………4	拓友会（拓植学科・国際地域開発学科）…15
ありがとう三茶・さようなら三茶……………5	むつあい会（短期大学部農学科）……………16
農学校友会（農学科・植物資源科学科）…6	生活環境学科校友会
紫友会（農芸化学科）……………7	（短期大学部生活環境学科）……………17
角笛会（獣医学科）……………8	応用生物科学科校友会
満喜葉会（畜産学科・動物資源科学科）…9	（応用生物科学科）……………18
いもづる会（食品経済学科）……………10	支部だより……………19
あすなろ会（林学科・森林資源科学科）…11	学生の就職活動・校友だより……………21
桜水会（水産学科・海洋生物資源科学科）12	校友会役員・事務局名簿……………22

平成13年度総会と懇親会



小田急ホテルセンチュリー相模大野で開かれた総会



平成13年度総会は会則に従い7月14日(土)14時より小田急ホテルセンチュリー相模大野8階フェニックスホールで開催された。木村貞司事務局長の開会の辞に続き、茂澤 卓会長から挨拶が述べられた。また、議長には茂澤会長が選出され議事へと進んだ。

議事では木村事務局長より、平成12年度の一般経過報告、千野会計担当より会計決算報告(収入37,899,948円、支出37,899,948円、基金積立金14,046,487円、名簿積立金、4,975,631円)がなされ、西山栄一監査による監査報告があり承認された。

次いで、木村事務局長より平成13年度の事業計画に関して、会員・準会員数、総会、懇親会、会報発行、新本館棟竣工時の記念品贈呈、校友会の発展と今後の対応などが説明された。これらの事業に必要な予算として収入は30,840,000円、支出は30,840,000

円、基金積立金14,046,487円、名簿積立金4,975,631円の予算案が示され、審議の後承認された。また、逝去された野田監事の後任として濱本和敏会員の就任、東京校舎さよならイベントへの協力が承認された。

さらに、村田副会長より、委員会の進行状況、冨澤副会長より全学的事業として展開されている日大iカードについての説明があった。

懇親会は隣室のフェニックスホールⅡに会場を移し、50名の来賓と70余名の会員を迎え、茂澤会長挨拶の後、来賓の日本大学副総長・生物資源科学部長 佐々木恵彦先生ならびに日本大学校友会本部事務局次長 鈴木弘文先生より祝辞を頂戴した。さらに、来賓紹介の後、元学部次長 丸尾文治先生の音頭で乾杯が行われ、歓談へと移った。最後は冨澤副会長の閉会の辞でお開きになった。



懇親会には来賓、会員ら120余名が出席した

校友会の新たな方向



日本大学生物資源科学部校友会 会長 茂 澤 泉

学部校友会の表題についての決意は、いうまでもなく卒業生の親睦団体である校友会を、いかにして魅力ある和やかな会としてアピールし、校友の誇りと懐かしさのために 終わりのないコミュニケーションを持続させるかにあります。

いま、学部校友会に管理運営の方法について、改革変革のきざしが幹事会、総会で提案されています。これがため会長の諮問機関として、総務、財務、企画の三委員会が発足し、校友会にとって効果的能率的な運営を真摯に検討しています。胡服騎射という名言は史記にあります。これは日々移り行く変化に対応するに柔軟な発想で、改革革新を遂行することです。皆さんが関与する企業でも改革なしに発展はありません。

経済学者のJ. A. シュンペーターは、「経済発展の最大の原動力は、企業化のイノベーション精神である」といっていますが、これこそ正に胡服騎射の主張です。改革には通常とかく軋轢が生じ、断行したから、といて必ず成功するとの保証もないからです。だから、つつい現状維持の気持ちになりがちです。しかし、それにこだわっているとつか遅れを取ることに。瀬在幸安総長のいう現状維持は退歩のはじまりと心に刻み、常に改革変革に取り組む姿勢は重視していかねばと思います。

翻って私達の分科会(分会)は 短大を含めて13分会あり、その成り立ちはそれぞれ異なります。また、分会の会則によっても総会懇親会の開催時期も異なります。然し乍ら、校友会活動を年1回着実に開催し会報まで発行されている分会もあります。さらに分会独自に、準会員である学生諸兄弟を応援し表彰する奨学生制度を確立している部会もあります。学科のご協力を得て学部の2年生から大学院まで、奨学生を選考して戴き、毎年奨学金を授与しています。これは名実ともに準会員の励みともなり、将来の校友会活動に影響し、やがて豊かな芽ともなりましょう。

私はつねづね校友会に課せられた役割は、尊大な不言実行より謙虚な有言実行が相応しいものと思います。またその姿勢は永い歴史のあゆみの中にあることを忘れず、感謝と和の精神を堅持し事にあたっては毅然と対処し、右顧左眈することなく実践することと考えます。そして何よりも13分会の活動の充実をはかり、それぞれ校友にとって魅力ある会の醸成を第一義と思います。

鮮やかな校友会の前進を皆さんと共に喜んで頂けるよう、今後とも校友各位からのご声援をお願い申し上げます。

(日本大学評議員・日本大学校友会副会長)



日大カードの誕生まで

日本大学校友カード委員 富澤 寿樹
学部校友会副会長

平成9年日本大学校友会に総務、財務、企画、広報の四つの運営委員会が発足し、校友会の新しい運営と活動が始まりました。そのひとつ財務委員会は、委員長に営商学部校友会会長、生物資源科学部から茂澤会長、富澤常任委員が選出され、委員会の度々の

会合で校友会の財政建て直しが検討されて参りました。平成10年度の会合で「日大カード」の発行が議題になり、財務委員会のなかに日大校友カード委員会をつくり、その実行への手掛かりを求めることになりました。

平成12年1月委員長に森本委員（商学部）他25名の委員で本学部から富澤が参加し、第一回日大校友カード委員会が開かれました。同じ頃大学当局でも日大カード作成推進委員会が発足しました。

同年2月第二回、同3月第三回委員会が開かれ、大学側から日大カード作成推進委員会の構想が発表され、校友だけでなく校友も含め在校生、父母、教職員といった日本大学を支える日大人のコミュニティとして日大iクラブを設立する事が発表されました。

そして、同年11月第四回、13年3月第五回の日大校友カード委員会を開催し、日大iクラブ会員の21世紀の高度情報化社会への対応、インターネット等のサービスを受けるメリット、そしてクレジットカードとして使用できる会員証の発行を決定した事が発

表されました。

校友会の財務委員会の初期の問題提起が大学をあげての事業となりました。会員の皆様にはご自身の生涯のためにも日本大学の発展のためにも、この事業をご理解の上ご入会下さることを希望致します。又、企業等経営されている会員の皆様には提携店としてご加入下さる様お願い致します。

「日大iクラブ」についてのお問い合わせは下記へお願い致します。

日本大学本部総務部内日大カード推進事務局

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24

☎03-5275-8469 F A X03-5275-8310

http://www.nihon-u.ac.jp

期待される新実習地

当学部は、小田急電鉄が富士山西ろくに所有していたレジャー施設「小田急花鳥山脈」（静岡県富士宮市佐折、約58万㎡）の跡地を10億円で平成13年3月22日付で購入しました。

当学部では同地を緑地・環境学、野生動物の生態観察、気象観測などの実習のほか教員、学生の各種研修、ガイダンス、サークル活動などの拠点として多角的に利用する計画です。同地は富士宮市の中心部から北西に約11kmの「富士箱根伊豆国立特別地域」内の田貫湖畔にあり、豊かな自然環境を生かした森林、池、ボタンやツツジ、カルミア、アジサイなどの庭園、温室などが既に効果的に配置されています。

具体的な利用計画として、①緑地・環境学に関するデザイン実習、園芸学に関する農場実習、②野生の鳥類、動物などの生態観察・保護対策実習 ③淡水魚の生態観察・増殖実習 ④造林学・森林生態学・昆虫学実習 ⑤気象観測、応用測量学、エコロジカル・デザイン実習などの実習授業のほか、新入生の受講ガイダンス、学生諸団体などの各種研修会、学生サークルの活動拠点など学生の教育・生活指導上の利用、さらに総合的な気象観測施設を設けて降雨

量や気温、日射量などを観測し、集積・解析データを周辺地域に公表するなど、地域保全・振興に寄与する研究センターとしても利用する計画です。

（管財課長 田口 知行）



日本大学生物資源科学部 東京校舎さよならイベント
ファイナル フェスティバル イン 三茶
Final Festival in SANCHA

2002年3月に食経・国際両学科は、湘南校舎に移転します。この移転で東京校舎は一応ピリオドを打つことになります。
 そこで校友・学生・教職員による最後のお祭りを開催します。
 その一環として校友の懇親会も企画しております。
 三茶キャンパス最後のお祭りです。企画・運営を担当する食経・国際の学生とともに、OB・OGのご来場を心待ちに致しております。

日 時 **12月8日(土) 午前10時開場**
 会 場 東京校舎(三軒茶屋) 中庭・食堂

企画内容(予定)

- ◆ 飲食模擬店・即売店
 焼きそば、おでん、中国料理、ドリンクコーナーなど
- ◆ 音楽ライブ・記念写真
- ◆ クライマックス企画
- ◆ 校友の懇親会(“クラブさんちゃ”で語ろう三茶)
- ◆ 時間：15時～16時30分 会費：3,000円

“ありがとう三茶” “さようなら三茶”



昭和20年代後半の東京校舎正門



現在の東京校舎正門

農 学 校 友 会

◇農学科・植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3620 事務局長 藤井 秀昭

平成13年度総会・懇親会開催

毎年5月第2土曜日に総会・懇親会を開催することが決まり、今年も5月12日(土)に湘南校舎において開催されました。議題は 1)平成12年度事業報告と決算報告 2)平成13年度事業計画案及び予算案 3)新名称変更について 4)50周年記念事業についての報告があり、すべての議題が審議され、満場一致で承認されました。その後、記念品の贈呈が行われ、これまで校友会の発展のためにご尽力下された石井賢治元教授、坪木良雄元教授及び庶務理事を退任された米田和夫教授に記念品の贈呈がなされました。その後、学生食堂(NUSCホール)にて懇親会が行われ、新任の先生方及び4年生の学生(約20名)を招待し盛会に終了しました。

校友会新名称選考委員会について

植物資源科学科に学科名称が変更されて早や6年目を迎え、平成12年3月に第1回の卒業生を社会に送り出しました。今後は農学科と植物資源科学科の卒業生が協力して、校友会を発展させなければなりません。そこで、校友会新名称選考委員会が発足され、委員として楠元会長、浅川、石川両副会長、西島羽相談役、古川、浅野両顧問、石井50周年記念事業準備委員長、坪木元庶務理事、勝野庶務理事、藤井事務局長が選出されました。新名称の選考段階として、卒業生より多くの名称が寄せられました。その一部を紹介しますと、瑞穂会、みずほ会、いなほ会、農学、植物資源校友会、みのり会、アグリボタ(Agribota)、たぶの会、草木会、いぶき、なずな会、緑資会、蔓友会、桜種会、六会会、富岳会、大和会、日大こもればい会、徒然会、みなもと会、さきがけ会など多くの新名称が検討されました。選考委員会では検討の結果、名称変更の必要性を再検討し、理事会でも急いで名称変更はせず時期をみて再度検討することになりました。



懇 親 会

学科の近況

学科主任は勝野武彦教授が、大学院生物資源生産科学専攻主任は福原敏彦教授、米田和夫教授は学部執行部の学生担当に就任され、活躍されております。学生教育では1・2年次が新カリキュラムで、3・4年次が旧カリキュラムで教育・研究がなされております。今年度の学生数は1年次(156名)、2年次(162名)、3年次(193名)、4年次(130名)計641名(内46・9%が女子学生)が在籍して勉学に励んでおります。

長年に亘り教鞭をとられました坪木良雄教授(作物学研究室)と副手の浅井理恵さん(実験準備室)が3月31日付で退職されました。坪木先生には長年学科の発展と学生教育並びに校友会事務局にご尽力下さり深く感謝申し上げます。今後ともご健康でご活躍されますことをお祈り申し上げます。

坪木先生のご退職に伴い、今年4月より新たに石井龍一教授(作物学研究室)が京都大学より、ま

た、吉田博宣教授(造園学研究室)が京都大学より着任されました。両先生の益々のご活躍が期待されます。



石井龍一教授



吉田博宣教授

昭和56年に東京校舎より湘南校舎に全研究室が7号館の2～4階に移転してから、早や20年が過ぎ去りました。新学部体制となり、1学科2,000㎡の教育・研究体制にするために、湘南校舎の12号館(7階建・平成11年完成)に平成14年度中に学科の全研究室、実験室、製図室が移転することが決定され、現在準備中です。20年間多くの学生を教育した各研究室も手狭になり、新校舎で更なる発展に向かって学科一丸となり努力しております。(井上 弘明)

紫 友 会

◇農芸化学科◇

連絡先 土壌学研究室
0466-84-3953 事務局長 隅田 裕明

E-mail: hsumida@brs.nihon-u.ac.jp

平成12年度総会 ・懇親会を開催

平成12年度の紫友会総会・懇親会が平成12年11月18日に湘南キャンパス内NUSCホールで開催されました。総会では平成11年度の事業報告、決算報告、監査報告ならびに平成12年度の事業計画、予算案について厳正な審議の後、いずれも承認されました。

総会后、多数の来賓と会員の出席を得て盛大な懇親会が行われました。今回は特に、学科の湘南校舎移転後最初の総会・懇親会であったため、例年にも増して、多数の会員の参加が見られました。また、懇親会には紫友会平成12年度（第7回）奨学生が招待され、表彰が行われました。

平成13年度第8回紫友会奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第8回生10名が、同奨学生選考委員会（有賀豊彦委員長）により厳正に選考された結果下記の諸君に決定いたしました。表彰は本年11月の紫友会総会・懇親会にて行われる予定です。

2年次 川口麻耶、佐藤典子、田中睦美
3年次 梶川夏代、小池亜希子、柳田俊一
4年次 松石 紫、山田祥子、矢萩久美子
大学院博士前期課程1年 吉澤菜穂子（敬称略）

学 科 の 近 況

農芸化学科は本年4月に新生155名を迎え、4年次まで総計642名（女子351名）が在籍しております。また、本学科の研究室に所属する大学院生は、博士前期課程が33名（女子9名）、博士後期課程が6名（女子1名）となっております。

学科主任教授は平成13年3月末をもって徳山龍明教授（微生物学研究室）が退任され、平成13年度より有賀豊彦教授（栄養生理化学研究室）が新しく就任されました。

矢崎仁也教授ご退職 矢崎仁也先生は昭和34年以来、植物栄養生理化学研究室（現在の名称）を主宰され、平成13年4月末に退職されるまで42年間の長き

にわたり本学科の研究・教育の両面ではかりしれないご尽力をいただき、本学科の発展に絶大なるご貢献をされました。本年1月15日に「植物の重金属栄養－重金属に憑かれて過ごした50年－」と題された最終講義が催され、現役学生はもちろん多数の教職員も先生のお話をうかがい、あらためて感銘を受けました。先生の今までのご尽力に感謝するとともに、今後のご健康とさらなるご発展をお祈りする次第です。



波多江（旧姓木村）みつ美副手は平成13年6月末をもって退職されました。波多江さんは6年間にわたり学生実験、学科事務を担当していただきました。ご苦勞をねぎらうとともに、ご多幸をお祈りいたします。

本年4月1日に河内 隆助手が生物有機化学研究室に着任されました。河内先生は平成12年に大阪大学大学院工学研究科博士後期課程を修了され博士（工学）の学位を取得されました。

同じく中川ゆかり副手が着任され、実験準備室での学生実験補助と学科事務を担当していただいております。中川さんは本学部食品科学工学科を平成13年に卒業されました。



河内 隆助手



中川ゆかり副手

川東正幸先生（土壌学研究室）は本年4月をもって専任講師に昇格されました。

熊谷日登美先生（食品化学研究室）は英国ノッティンガム大学での1年間の留学から本年3月に無事帰国されました。

紫友会事務局より

平成12年度末をもって、長谷川功事務局長（昭和44年卒）が退任されました。10年間にわたり紫友会のためにご尽力いただき厚く御礼申し上げます。平成13年度より隅田裕明新事務局長（昭和53年卒）が就任しました。それに伴い事務局の担当も一新いたしましたので、今後とも新事務局スタッフをよろしくお願いいたします。（高橋 令二）

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医微生物学研究室
0466-84-3635 事務局長 鎌田 寛
kamata@brs.nihon-u.ac.jp

角笛会総会を開催

平成13年度の総会は、6月30日土曜日午後、生物資源科学部で開催されました。劈頭、本年4月より獣医学科主任に就任した渡部敏教授（獣医生化学）により、巷間話題の大学改革について、その現状と将来とに関する特別講演を戴きました。その中で、私立大学の今後にとって、特徴創成がことの他重要である趣旨が示されました。次いで総会となり、同日先立って開催された幹事会で落られた事業計画、会計収支、予算案、顕彰者等が、総会の審議を受け、了承されました。財政状態は厳しいものがあり、緊縮基調が変わることはありません。本年度の角笛会総会は、角笛会への永年の貢献に表敬し、天羽一郎（山形）、川島毅（岐阜）、原田良徳（熊本）、竹村守暉（高知）、小林靖典（長野）各氏に表彰状と記念品とを差し上げました。同様にして本年ANMEC支援基金は、加納聖助手（獣医臨床病理学：「レプトスピラ症の迅速診断法の確立」）に授与致しました。一方、角笛会の獣医学科学生に対する支援を一層実の有る形にする為、全国会員の力を借り、博く勉学の機会を設ける案が、会長始め角笛会執行部より提案され、新たな方針として、総会はこれを採択しました。何よりも、若い獣医学徒校友に、獣医師の現場を知る機会を与えること、願わくば各支部等で、現場の獣医師と、学生や新米獣医師らとが交流を深める素地作りにも寄与することが期待されています。

獣医学科の近況

○獣医師国家試験

第52回獣医師国家試験の結果が平成13年3月17日に発表されました。日本大学獣医学科からは新卒者151人が受験、138人が合格しました。合格率は91.4%で、全国平均の89.3%を上回り、獣医系私学の中では全国2位と好成績を残しました。

○表彰、受賞、学位等の授与

卒業生の今村彩貴さんが総長賞と優等賞、野村愛さんと間宮幸子さんが学部長賞、池田有希さんが日本獣医師会会長賞をそれぞれ授与されました。また、本学田中茂男教授と中村遊香助手に学部長賞が授与されました。

角笛会会長賞は、小熊圭祐君（獣医臨床病理学）、新村真海君（獣医衛生学）さんに授与されました。内科学研究室助手の中村遊香先生が「Cryptococcus neoformansの血清型とその分子生物学的研究」で

日本医真菌学会、日本医真菌学会奨励賞を外科学研究室助手の浅野和之先生が「経静脈のコイル塞栓術により治療した犬の肝内性門脈体循環シャントの1例」により日本小動物獣医学会関東地区学会会長賞をそれぞれ受賞されました。

今年度、大学院博士課程を修了し博士（獣医学）を取得された方は永岡大典氏、井上裕基氏、論文提出により博士（獣医学）を取得された方たちは、永田雅彦氏、下田哲也氏です。

○獣医学科入試・入学状況

現在、本学では種々の方法で入学者の選抜が行われていますが、獣医学科のそれぞれの受験状況は以下の表に示すとおりです。

選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
指定校推薦（普通科）	学部全体で77名	34(25)	15(11)	2.6
指定校推薦（国連産業連携者）	学部全体で33名	3(3)	1(1)	3.0
公募制推薦（普通科）	学部全体で66名	50(35)	10(9)	5.0
公募制推薦（国連産業連携者）	学部全体で33名	23(9)	7(4)	3.3
公募制（技術）	学部全体で22名	14(10)	2(1)	7.0
本校試験	50名	2,375(1,123)	107(59)	20.2
地方試験	10名	590(302)	26(10)	22.4

（ ）は女子

以上の激戦を勝ち抜いて本年度獣医学科に入学した1年生は151名です。

1年次：浅野隆司教授（獣医薬理学）、根本洋明助教授（数学）、渋谷久講師（獣医病理学）

2年次：金山喜一教授（獣医生理学）、上床和弘講師（獣医伝染病学）

3年次：月瀬東教授（獣医解剖学）、森友忠昭助教授（魚病学）

4年次：中西照幸教授（魚病学）、丸山総一助教授（獣医公衆衛生学）

5年次：田中茂男教授（獣医外科学）、講師（獣医外科学）

6年次：野上貞雄助教授（医動物学）、木村順平（獣医解剖学）

○退職

白井 弥先生（獣医病理学）、小坂俊文先生（獣医外科学）が退職されました。

○昇格・移動

森友忠昭先生（魚病学）が助教授に昇格されました（平成13年4月1日付け）。

○新任 見上彪教授（獣医公衆衛生学）、三浦康男教授（獣医衛生学）、井上裕基助手（魚病学）、鈴木一由助手（獣医薬理学）が採用されました。



見上教授

三浦教授

井上助手

鈴木助手

◇求人のお願い 女子学生の増加に伴い、小動物臨床の勤務医を希望する者が増えています。会員からの求人申し込みは学部就職指導課ならびに6年次担任（野上貞雄教授、木村順平助教授）までご連絡ください。（丸山 総一）

満喜葉会

◇畜産学科・動物資源科学科◇

連絡先 動物生体機構学研究室
0466-84-3790 遠藤 克

満喜葉会役員会開催

平成13年6月2日(土) 午前10時30分より日本大学



新事務局長就任

今年度から宮原晃義先生に代わり遠藤克先生が新事務局長として事務局の運営を担当されることになりました。前事務局長の宮原先生には長年に亘って満喜葉会のためにご尽力頂きましたことに心よりお礼を申し上げます。

学科の近況

昇格

平成13年4月1日付で小牧弘助教授(飼養学研究室)と甲斐蔵助教授(動物生殖学研究室)が教授に、増田哲也専任講師(畜産食品科学研究室)と山室裕専任講師(動物育種学研究室)が助教授に昇格されました。

退職

今井清教授(動物生殖学研究室)が平成12年11月6日、森地敏樹教授(畜産食品科学研究室)が平成13年3月31日をもって定年退職されました。両先生には本学へ赴任されて以来、長年に亘って学科の発展にご尽力頂きました。今後ともご健康でご活躍されますことをお祈りいたします。

新任教員の紹介

平成13年4月1日付で伊藤敏敏教授(写真)と村田浩一助教授(写真)が着任されました。

伊藤先生は昭和35年に東北大学農学部畜産学科を

生物資源科学部湘南校舎第1会議室において、平成13年度満喜葉会役員会が開催されました。役員会は岩間脩会長挨拶の後、会則に従って岩間会長を議長として議事に移り、平成12年度事業経過並びに会計決算が事務局より報告され承認されました。また、会計監査より監査結果についての報告がなされ承認されました。次に、平成13年度事業計画並びに予算案が事務局より提案され、審議後承認されました。その後、動物資源科学科学科主任泉水直人教授より学科の近況と新任教員の紹介がありました。

卒業後、同校大学院修士課程を修了されました。本年3月までの37年にわたり東北大学で牛乳・乳製品に関する研究・教育に従事していました。本年度から畜産食品科学研究室に所属し動物性食品科学等を担当されます。

村田先生は昭和50年に宮崎大学農学部獣医学科を卒業され、神戸市王子動物園に獣医師として勤務されました。本年3月までの23年にわたり動物園動物の臨床・繁殖に関わる業務のかたわら野生鳥類の研究に従事していました。本年度から新たに創設された野生動物学研究室に所属し野生動物学入門等を担当されます。



伊藤敏敏教授



村田浩一助教授

事務局より

今後の円滑な名簿作成と発行を行うにあたり、転動による住所変更や結婚などによる氏名変更の際には、お手数でも事務局までご連絡ください。

(園田 豊)

いもづる会

◇食品経済学科◇

連絡先 食品資源研究室
03-3421-5859 事務局長 下波 敏治

《2001年度幹事会を開催》

2001年度の幹事会および懇親会が去る6月2日(土)、午後4時30分より東京校舎で開催され、懇親会には学生幹事を含め40余名の参加者があり、和やかな一時を過ごしました(写真)。幹事会では、下



渡事務局長から2000年度の活動報告、学部・2学科(食品経済・国際地域開発)共催による「ファイナルフェスティバル イン 三茶」(東京校舎さよならイベント)の企画案が紹介されました。また3月に定年退職された清水隆房前教授が名誉会員に追加承認されました。

《学科よもやま話》

【新入生】今春、食品経済学科は150名(男子103名、女子47名)の新入生を迎え、恒例の新入生研修会は4月21日(土)、湘南校舎においてバレーボール大会と懇親会が開催されました。懇親会では、オリエンテーション用に作成されたパンフレット「ようこそ食品経済学科」が配布され、その中に掲載された学科教員の出題による「食品経済学の世界へクイズで一步」では、解答が発表される度に大きなどよめきが起り、会場は大いに盛り上がりました。

【オープンキャンパス】7月30・31日に開催されたオープンキャンパスでは、初めての企画として「おにぎりミニミニ シンポ」を開催しました。このシンポジウムでは、高校生の利用度が高いコンビニエンス・ストアで販売されているおにぎり、カップめん、



スナック菓子などを展示し(写真)、今日のフードシステムの現状や食品の安全性などについて、訪れた高校生と学科教員の間で、さまざまな視点から議論が交わされました。

【特別講義】今年で10年目を迎える3年次開講の特別講義は9月の3日間、「食品スーパーほど素敵な商売はない」と題して、サミット(株)会長 荒井伸也氏によって集中講義の形で行われました。サミットが独自に開発し業界から注目されている「棚割システム」、「人事制度」などについて、理論と実務の両面から講義が進められました。

【東京校舎さよならイベント】湘南校舎に建設中の新本館棟は2002年1月30日に竣工式が行われる予定です。その後、食品経済学科と国際地域開発学科の本格的な移転が始まります。そこで校友、学生、教職員による最後のお祭り「ファイナル フェスティバル イン 三茶」を12月8日(土)10時から東京校舎(三軒茶屋)で開催します。OB・OGのご来場をお待ちしています。

【人事】2001年3月をもって清水隆房先生が定年退職されました。僅か5年の在任期間でしたが、学科発展のために何かとご苦労頂きました。茨城大学農学部から中島正道先生が着任しました(2001年4月1日付)。また、第10代食品経済学科主任教授に樋口貞三先生が選任されました(同上)。学科のより一層の充実・発展を期待致します。(木島 実)

あすなる会

◇林学科・森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3675 事務局長 石垣 逸朗

E-mail: i-ishigaki@brs.nihon-u.ac.jp

平成13年度

あすなる会幹事会を開催

平成13年6月30日(土)午後4時より私学会館アルカディア市谷において、平成13年度あすなる会幹事会が開催された。各期の幹事約20名が出席し、平成11、12年度の事業経過報告、会計決算報告などが行われた。また、平成13、14年度の事業計画、会計予算等が討議され、承認された。さらに、本年10月20日(土)午後4時より私学会館アルカディア市谷において、あすなる会総会・懇親会を行うことが決定された。

平成12年度

あすなる会会長賞受賞者

平成12年度あすなる会会長賞に下記の5名が決定し、平成12年3月22日横浜インターコンチネンタルホテルにおいて行われた卒業記念謝恩会にて、賞状および2万円相当の万年筆が記念品として贈呈された。

有蘭健志 (森林・緑地造成ゼミ インドネシア
ムラワルマン大学大学院)

市川恵美子 (木材科学・工学ゼミ ㈱ヨシコン)

中島美野子 (森林・緑地保全ゼミ アゴラ造園株式会社)

島村潤一 (森林動物ゼミ 三井物産林業株式会社)

猪狩美保子 (住宅・流通ゼミ 株式会社石勝エクステリア)



あすなる会会長賞受賞者と濱本教授(前事務局長)

学科の近況

6年間にわたり学科全体の事務を引き受けていただいていた杉淵雅代副手が、任期満了に伴い本年3月末日をもって退職された。長い間ありがとうございました。今後もご健康でご活躍されますようお祈りいたします。後任として、本年3月本学科を卒業した齋藤真澄副手が着任された。また、造林・風致学研究室の本江一郎助教授が研究所教授に、木材科学・工学研究室内の宮野則彦専任講師と森林測定・経済研究室の増谷利博専任講師がそれぞれ助教授に本年4月より昇格された。今後の更なるご活躍が期待されます。



齋藤真澄副手

本年度の新生は161名で、内66名が女子学生であった。ここ数年の傾向として、女子学生の入学人数が増加している。

訃報 鹿野 忠 学科校友会会長逝去

本学科の第1期生で、当校友会設立以来49年間にわたり会長として会の発展のために御尽力頂いた鹿野忠会長が、病氣療養中のところ肝臓疾患のため平成13年6月6日に他界されました。享年72歳。ここに慎んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。



事務局より

本年10月20日(土)午後4時より私学会館アルカディア市谷にて、あすなる会総会および懇親会を行います。詳しくは別に御連絡いたしますので、多数の会員の御参加をお待ちしております。

昨今の就職環境は、女子学生はもとより、男子学生にとっても非常に厳しいものとなっております。就職に関する情報をお持ちの会員諸氏は、上記連絡先までご一報いただければ幸いです。また、前報でもお願いいたしましたように、会員の動向を的確に把握するため、住所変更、氏名の変更などがございましたら、お手数でも事務局までご連絡下さい。

(宮野 則彦)

桜水会

◇水産学科・海洋生物資源科学科◇

連絡先 海洋生物生理学研究室
0466-84-3677 事務局長 小橋 二夫

今年は初夏がなかった。春からすぐに盛夏がやってきて、うだるような暑さが続いたと思ったら、数年ぶりに台風が本土上陸、太平洋岸を嘗め尽くす形で北上し、各地に被害をもたらしましたが、一方で水不足が多少なりとも解消され一息ついたところ。会員諸兄姉におかれましてはお変わり無くお過ごしのことと拝察致しております。

さて、この一年の桜水会ならびに学科の状況についてお知らせ致します。

代議員会・総会

平成13年度代議員会・総会を平成13年7月7日(土)に湘南校舎1014講義室にて開催されました。代議員会において事務局長から平成12年度事業報告案、会計幹事から同決算報告案が提案され、それぞれ承認されました。さらに平成13年度事業計画案および予算案が提案され、これも承認されました。引き続いて開催された総会において代議員会で承認された事項についての報告がなされました。

代議員会・総会終了後、各分会の代表を来賓としてお招きして懇親会がNUSCホールにおいて開催されました。

前回のこの会報でお知らせ致しましたが、平成14年に桜水会が50周年を迎えますので、その記念事業の計画のための各種委員会が発足致しました。委員になっていただいた方々はそれぞれお忙しい中を記念事業開催のため会合に出席して頂いておりますが、準備が多少遅れがちとなり、記念式典は1年おくれの平成15年度早々に開催することとなりました。この結果時間的な余裕が出来ましたので、立派な記念事業が挙行されると思われます。しかし、いくら委員が頑張っても会員の皆様のご協力がなければ事が進みませんので、会員諸兄姉には是非ご協力をお願い致します。

学科の動向

御退職: 青野英司助手(旧水産増殖学研究室)が奈良先端技術大学博士後期課程にすすむため、3月30日をもって退職されました。

新任: 青野英司助手の後任に、間野伸宏氏が助手として4月1日付けで着任しました。海洋資源育成環境学研究室に所属しております。間野君は平成5年



間野伸宏助手

3月に本学水産学科を卒業、直ちに大学院農学研究科水産学専攻博士前期課程に、平成7年4月には同博士後期課程に進み、平成10年3月に博士(農学)の学位を取得し、同年4月から農林水産省中央水産研究所研究員、平成12年には科学振興財団特別研究員として研究を続けておりました。研究のますますの発展を期待しております。

昇格: 4月1日付けで松宮政弘専任講師(旧水産利用学研究室)が助教授に昇格されました。

研究室名の改称: 平成11年から施行された新カリキュラムと研究室名が合致しないため、研究室名を変更しました。

水産生物学研究室 → 海洋生物生理学研究室

(朝比奈教授、小橋専任講師)

魚医学研究室 変更せず

(廣瀬教授、小敷賀副手)

水産増殖学研究室 → 海洋資源育成環境学研究室

(杉田教授、間野助手、中嶋副手)

水産化学研究室 → 海洋生物化学研究室

(西出教授、長野副手)

水産分子生物学研究室 → 海洋生体機能化学研究室

(内田教授)

水産利用学研究室 → 海洋生物機能応用学研究室

(望月教授、松宮助教授、宮内 助手)

海洋学研究室 → 海洋環境学研究室

(広海教授、荒助手)

漁業生産学研究室 → 海洋生物資源生産学研究室

(谷内教授、小島助教授)

水産資源情報学研究室 → 海洋生物資源管理学研究室

(吉原教授)

学科役職: 平成14年4月1日から学科内の役職が以下の通りになりました。

学科主任: 廣瀬一美教授

庶務係 杉田治男教授

教務係 松宮政弘助教授

会計係 小島隆人助教授

水産学専攻主任: 杉田治男教授(生物資源科学研究科生物資源生産科学専攻連絡員)

下田臨海実験所長: 吉原喜好教授

校友会活動は母体である学科と密接な関係を保ってこそ活性化するものと思われれます。50周年という節目を迎え、記念事業も着々と進展しているわけですが、実行委員長である桜水会会長と学科主任がより活発な連携をもって記念事業の成功を期して貰いたいものです。

(吉原 喜好)

工 学 会

◇農業工学科・生物環境工学科◇

連絡先 農地整備学研究室
0466-84-3694 (FAX兼用) 事務局長 斎藤 公三

E-mail:ksaito@brs.nihon-u.ac.jp

「工学会の明日を 考える会」開催される

学部校友会に『校友会の明日を考える会』が発足したのを受け、懇談会『工学会の明日を考える会』が20世紀もあと2週間ほどで終わるといふ平成12年の12月16日15時より東京校舎6号館3階第1会議室で、工学会会長の村田氏の発案で開催された。

懇談会では、村田会長がまづ話題提供を行い、校

友会のホームページ、財源、事務作業、懇親会などにおけるこれまでの進行状況とこれからの問題点が挙げられた。

この話題提供に対し、校友の方から活発な意見が提起され、2時間という時間があっという間に過ぎお開きとなった。特に現在、当学科はJABEE（日本技術者教育認定機構）の農業土木分野における試行大学になっていることから生じるOB会との連携についての検討事項が多く討議された。このあと17時より、教職員食堂で懇親会が開かれた。平成14年には全学科が湘南校舎へ移動してくる関係上、この機を逃がしては思い出の校舎、食堂と名残を惜しむ事が出来ないとのことからあえて、東京校舎教職員食堂で開催された。4年間を東京校舎で過ごした方々には感無量であったと思われる。終了後、2次会も行なわれたが、ほとんどの方が参加され、東京校舎への郷愁を語り合ったようです。



理事会・役員会開催される

平成13年5月26日、東京校舎第一会議室で14時より理事会が、その後、役員会が開催された。

平成12年度一般経過報告、決算報告がなされ全会一致で了承された。また、平成13年度事業計画、予算案が示され全会一致で了承された。この中で、会費の徴収、大学院修了者に対する会員としての扱い（大学院に農業工学専攻が無くなったため）をどうするかについて今後検討する必要があることが提議された。

学科の動向

平成13年4月より研究室の名称が変わりました。生物生産・プロセス工学研究室（富田専任講師）、生物生産システム工学研究室（世良田教授、宮本助教、内ヶ崎専任講師）、環境土木施設工学研究室（中村教授、辻助教、青木専任講師）、水資源環境工学研究室（石川助教、長坂助手）、地域環境計測学研究室（齋藤専任講師）、生物生産流通施設学研究室（川西教授）、地域環境保全学研究室（河野教授、笹

田助手、松木副手）、建築・地域共生デザイン研究室（岡本教授、糸長助教授、栗原専任講師）、生物環境情報工学研究室（木谷教授）です。よろしくお願いいたします。

平成13年4月、私こと川西が教授に、内ヶ崎先生と栗原先生が専任講師に昇格しました。昇格おめでとうございます。先生方には学部、学科のために今後もご尽力お願いしたいと思っております。

平成13年3月31日をもって二宮智恵副手が、また平成13年9月30日をもって森嶋博教授が退職されました。長い間、本学科のためにご尽力いただきました。これからの両先生のご健勝をお祈りしたいと思います。



本年4月、地域環境保全工学研究室に笹田勝寛助手が着任されました。笹田先生は平成8年3月に本学部の博士後期課程を修了、その後4年間、付属藤沢高校で教鞭を執っておられました。本年より学科のためにご尽力を頂くことになりました。先生のこれからの活躍を期待したいと思います。

（川西 啓文）

F T 会

◇食品工学科・食品科学工学科◇

連絡先 食品学研究室
0466-84-3981 事務局長 竹永 章生

E-mail: takenaga@brs.nihon-u.ac.jp

F T 会活動報告

平成12年11月25日に湘南校舎にてF T会総会が行われました。その後、NUSCホールにて懇親会が盛大に行われました。平成13年4月21日にはF T会理事会が、5月19日には平成13年度F T会総会が行われました。事業報告、会計収支決算、事業計画および会計収支予算に関して討議され、承認されました。

平成12年7月にはF T会の補助により3年生と教員



との懇親会が行われ、3月には第36期卒業生147名へ卒業祝いとしてクオカードを贈りました。また、学業および人物優秀な学生へ贈られるF T会長賞には本年度は柿原芳輝君が選ばれました。柿原君は現在、大学院へ進学され、日々勉学に励んでおります。



優勝した食品科学工学科の学生たち

学科の近況

○2001スポーツフェスタ優勝

平成13年5月に行われたスポーツフェスタ(学部運動会)にて食品科学工学科が優秀な成績で優勝しました。当日は応援も華やかに行われ、新入生の団結力が際立った一日でした。なお、F T会では当日、参加した新入生に対してスポーツドリンク等を配りました。

○昇格および採用

平成13年4月1日付で竹永章生先生が助教授に昇格されました。

また、食品学研究室に鳥居恭好先生が、食品微生物学研究室に古川壮一先生が助手として採用されました。



鳥居 助手



古川 助手

鳥居先生は平成8年3月に名古屋大学大学院農学研究科で博士号(農学)を取得され、その後、名古屋大学農学部にて活躍されておりました。現在、「酸化ストレス応答性遺伝子の検索と解析」を主要テーマとして研究に励み、また、学生の教育にも熱心で、学生からも信頼されております。

古川先生は平成13年2月に九州大学大学院生物資源環境科学研究科で博士号(農学)を取得され、現在、「静水圧処理による細菌胞子の殺菌についての研究」を主要テーマとして研究に励んでおります。また、先生は柔道の達人で、その人柄から学生に慕われております。

事務局より

会員の方々に、住所変更や改姓などがありましたら、ご面倒とは思いますが、ぜひ事務局までお知らせ下さい。

(阿部 申)

拓友会

◇拓植学科・国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営研究室
03-3421-6437 事務局長 早川 治

E-mail: osamu@ca.mbn.or.jp

平成13年度

拓友会総会・懇親会

平成13年6月30日(土)原宿「南国酒家紅玉の間」において平成13年度拓友会総会が開かれました。議長に近藤会長を選出の後、平成12年度事業報告及び会計報告が行われ、全員一致で承認され、平成13年度事業計画及び予算についても討議を経て承認されました。

続いて「翡翠の間」において懇親会が開かれました。富沢校友会副会長、各分会長を来賓としてお迎えし、会長挨拶、来賓挨拶、上原新主任の挨拶、新任教員の紹介の後、広瀬教授の音頭で乾杯が行われ、歓談へと移りました。



懇親会風景



新任教員を主任から紹介。前列右から上原主任、嘉敷、増見、北野、後列左からロイ、落合、山口の各先生。

拓友賞に本橋君

平成12年度拓友賞は卒業パーティの責任者を努めたインドネシアゼミ所属の本橋弘泰君に決まり、3月25日学科卒業証書伝達式において、浜口副会長から賞状と記念品を授与されました。

学科の動き

◇退任

山田 三郎 教授

平成13年3月定年により退職されました。9年間でしたが、退職前の4年間は学科主任を務められ

ました。どうもありがとうございました。

片岡 春雄 教授

3年前に来られましたが、明星大学の新学部開設に伴い退職されました。学生に大変慕われておられました。今後もご活躍されるようお祈りいたします。

松永 まどか 副手

3年間でしたが、学科事務に貢献されました。ご苦労様でした。

澤田 瑠美 副手

短い間でしたが、実習では学生に大いに頼りにされていました。ありがとうございました。

◇新任

平成13年4月より、次の方々を本学科にお迎えしました。これからのご活躍に期待いたします。

嘉敷 啓 教授 (Ph.D・58歳・理論経済研究室)

沖縄県出身。名古屋大学等で教鞭を執られ、沖縄新興開発金融公庫副理事長が前職。経済統計学、ミクロ経済学、マクロ経済学等を担当されます。

増見 国弘 助教授 (博士(農学)・53歳・国際協力研究室)

徳島県出身。本学短期大学部農学科、食品経済学科卒業。国際協力事業団等で技術協力に携わられました。国際協力論、技術移転論、異文化交流論等を担当されます。北野 取 助教授 (Ph.D・38歳・農業経済第2研究室)

東京都出身。本学拓植学科卒業。東京農工大学大学院在学中、国家公務員第種試験に合格し農水省に勤務、農業白書作成などに携わり、コーネル大学大学院に派遣され、Ph.D取得。農業政策、地域開発論、経済情報分析実習等を担当されます。

キンシュック・ロイ 専任講師 (博士(農学)・36歳・国際環境生態研究室)

バングラディッシュ出身。母国の大学を卒業。鳥取大学連合大学院で博士(農学)を取得、日本大学等で客員研究員。日本語は日本語弁論大会で優勝するほど。開発工学、地域環境保全工学、原書講読等を担当されます。

落合 あずさ 副手

埼玉県出身。本学拓植学科卒業後、筑波大学大学院で環境科学を専攻し修士を取得。その後タイの大学で教育に携わるなど豊かな発想力と経験の持ち主です。

山口 貴子 副手

神奈川県出身。本学海洋資源科学科を卒業。学生時代はローラーホッケー部のキーパーで、チームは学生日本一の成績を残しているそうです。

◇昇格 半沢 和夫先生が助教授から教授に昇格されました。

◇主任交代 上原 秀樹教授が主任に選ばれました。(緒方 行廣)

むつあい会

◇短期大学部農学科◇

連絡先 応用花学研究室

0466-84-3742 事務局長 武田 恭明

総会・懇親会の開催

平成13年度むつあい会は、6月9日(木)15時より湘南校舎本館第一会議室で開催されました。

総会は鈴木勝春副会長の開会の辞、富澤寿樹会長の挨拶で始まり、斉藤忠雄幹事(4期)を議長に選出して議事に入りました。

はじめに事務局長より平成12年度一般経過報告があり、富澤会長から補足説明と事業の詳細な報告等が行なわれて、報告通り承認されました。

続いて広長正会計幹事より平成12年度会計報告が、また滝沢章・江場秀造両監査による監査報告が行なわれ報告通り承認、さらに平成13年度会計予算案の審議に入り、予算案通り承認されました。



懇親会会場の風景

本年度は事務局体制の変更(編集幹事の新設)や短大農学科人事の大幅な異動などがあり、これに関する説明が行なわれて了承されました。

懇親会は17時から、昨年同様、新短大棟(5号館)に移り、お披露目を兼ねて1階512実験室で開催されました。来賓として酒井健夫生物資源学科部次長、茂澤果校友会長、木村貞司校友会事務局長、校友会11分会会長(または代理)、および短大農学科関係の先生方8名のご臨席と準会員の短大学生10名の参加を得て和やかな宴となりました。

会は鈴木勝春副会長の開会のことば、富澤会長の挨拶で始まり、茂澤校友会長、酒井学部次長、青山農学科長の祝辞、来賓紹介と続き、高橋文次郎元農学科長の乾杯の音頭で懇談に入りました。セレモニーでは、経済不況の中受験人口も低下の道を辿っており、いかなる対策を立てるべきかという不安な状況が述べられる一方、不安定要素が多いからこそアイデアと活力の増進が必要との意気込みも披露されました。大学側としてもここ数年、東京校舎の移転や新校舎建設、学内運営の合理化やIT化など将来へ向けて展望のある事業の推進が行なわれている状況が説明され、校友の皆様による力強い支援への要

望が述べられました。懇談の場も久し振りの顔合わせとあって、和やかな談笑も尽きる事なく続き、若い準会員も先輩方のお話に興味深く聞き入っていました。校舎の外も日が暮れて、宴たけなわのところ、再会を期し名残を惜しみつつお開きとなりました。毎年のむつあい会総会および懇親会のお知らせは、4月にお届けする「むつあい会会報」に載せております。よくご確認いただき、多くの会員が御出席下さいますよう念じる次第です。

学科の近況

学生関係:13年3月に62名(50期)が卒業して正会員となり、4月に63名(女子47名、男子16名)の新入生を迎えました。現在2年生は63名(女子50名、男子13名)で合計125名の準会員が在籍しています。教員関係:4月1日付けで青山友雄助教授、寺澤輝雄助教授がそれぞれ教授に昇格されました。また、生活環境学科所属の後藤雅弘助教授(体育)が教授に昇格され、農学科教授に所属替えとなりました。新任として新町文絵助手(植物細胞工学系実験担当)を迎えました。学科長は青山友雄教授です。なお、土岐知久教授は3月に定年退職されましたが、講師として引き続き「野菜園芸学」を担当されます。

卒業生の進路状況

卒業生62名のうち、38名(61%)は本学の生物資源科学部(33名)や他大学(5名)へ進学しました。専門学校(6名)、就職(8名)、自営(1名)、進学・留学準備・アルバイトなどを含めたその他が9名となりました。

入学志願状況

平成13年度の一般入学試験の志願状況は募集人員25名のところ、志願者数は118名、合格者は52となり競争率は昨年の2.3倍より低下したとはいえ、合格点は前年並で、短大としては全国的にも高い水準にあります。とはいえ、志願者は確実に年々減少する傾向にあります。さらに優秀な学生が集まるよう、学科としても教育環境の整備を行うとともに在学生の要望に応え、結果として社会的評価が高まるように努力いたします。これまで同様、校友諸氏の絶大なご支援をお願いします。(浅野 絃臣)



準会員(2年生)の実習風景

生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇

連絡先 環境科学研究室 事務局長 飯塚 統
0466-84-3750
Eメールアドレスkaken.@jha.brs.nihon-u.ac.jp

校友会総会、懇親会

2000年11月16日(木)、渋谷のクロスタワー31階、北欧料理のオソロを会場に、茂澤学部長校友会会長、佐々木学部長、短大次長も出席されて、懐かしい友との楽しい会話、おいしい料理と恒例のビンゴゲームを楽しむひとときを持ちました。今年のビンゴの1等賞ははやりの折り畳み式自転車でした。

学科の近況

体育の後藤雅弘助教授は短大教員数の適正配置の必要から、4月より短大農学科に移籍なさいました。授業は今までと変わらず両学科を教えておられます。昨春に移転した新校舎にもなじんで落ち着きました。新設のコンピュータ室にはいつも学生の姿が見られ、インターネットを通じた調査や求職活動などはこの頃の学生の常識になってきたことが感じられます。化学実験のレポートをワープロで作成する人も珍しくなくなりました。(この場合、クラスメイトの書いたレポートを写すことも一層やりやすいのですが、それは見ていれば判ります)

2000年度の卒業生106人の進路は、生物資源科学部編入44人(42%) 他大学編入15人、就職18人、

校友会からのプレゼントの揃いのTシャツで運動会に参加する新入生



短大新校舎のパソコン室で学習する学生

短大棟のそばのバラ園の開花

専門学校、留学、14人、アルバイト、未定14人でした。

他大学編入先は、麻布大環境保健学部3人、東京薬科大生命科学部、茨城大、東京農大各2人づつ、神戸大、順天堂大スポーツ健康学部、帯広大畜産学部、東海大、関西外語大各1人づつでした。留学はState Univ. of New Yorkなど。専門学校の分野は情報、デザイン、園芸、動物飼育など。就職先は伊豆箱根観光、日本曹達などの株式会社その他、日本大学本部や日大板橋病院、自衛隊朝霞駐屯地、農林漁業金融公庫など「かたい」ところが目立ちます。

以上、変化の少ない平穏な1年目だったと見えますが、今年度の受験生125人から選ばれた新入生は初めて100人の定員より少ない88人でした。短期大学の入学者が減少していることは日本全国の現状です。生活環境学科は上記のような多様な進路を実現する短大として比較的安定した志願者数を保っていましたが、今後は社会の変化にどのように対応するか、難しいことです。

短大がどのように変わるにしろ、校友の皆様との親睦の場として校友会は変わらないことでしょう。

事務局より

今年度の校友会総会、懇親会は11月11日(日)横浜で開く予定です。詳細は同封のちらしを見て下さい。皆さん来てください。

住所、氏名に変更の方の方はホームページで、または葉書で飯塚教授へご連絡ください。

(大川 いづみ)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室
事務局長 司馬 肇

TEL: 0466-84-3700 FAX: 0466-84-3700
e-mail address: chang@brs.nihon-u.ac.jp

校友会の皆様へ

ABS校友会は、設立してから今年で10年目となりました。今年度の総会は間もなく開催されますが、今後の校友会の運営や活動方針についても議論をする予定であります。校友会が発展するためには会員の皆様方のご支援とご協力は不可欠であります。会員の皆様が積極的に総会に参加し、多くのご提案をされるようお願いしております。

第10回総会・懇親会の開催について

前年度（第9回）総会は平成12年11月25日（土）14:30より、湘南キャンパス第2会議室において開催され、平成12年度事業報告、同年度会計決算報告、平成13年度事業計画、平成13年度会計予算案に関する案件について審議・承認をいただきました。平成13年度（第10回）の総会・懇親会は来る12月22日（土）16:00相模大野センチュリーホテルにおいて開催する予定であります。校友会創立10周年を迎えるにあたり、出来るだけ多くの校友の皆様に参加していただき、楽しいひとときを過ごしていただくため、参加費は無料とし、ご家族の参加も可いたしました。この機会を利用して、同期の会員の方々とも連絡を取り合って、是非ご参加ください。なお、準備の関係上、9月上旬に葉書による出欠の調査を

行いますのでご協力お願い申し上げます。万一、葉書が届いていない場合は、直接事務局（司馬肇、TEL/FAX:0466-84-3700、chang@brs.nihon-u.ac.jp）までご連絡ください。

ABS校友会の現状と本年度の活動行事

本校友会の会員は今春、145名の平成12年度卒業生（写真）を新たに迎え1388名となりました。準会員として589名が応用生物科学科に在籍しております。

校友会活動の一環として、例年研究室対抗球技大会が行なわれております。昨年はバレーボール大会を開催し、大学院生チームが優勝しました。現在、湘南キャンパスにおいて高層ビル（新本館棟）の建築が行われているため、今年度も研究室対抗バレーボール大会にいたしました。開催の日時は10月7日（日）を予定しておりますので、会員の皆様もチームを結成し、後輩たちと楽しい一日を過ごしていただきたいと思っております。

応用生物科学科の近況

現在、応用生物科学科に籍学生数は589名で、学年別には4年生152名、3年生148名、2年生156名、1年生133名となっております。大学院関係では、応用生命科学専攻に在籍する本学科の学生数は博士前期課程31名、博士後期課程9名、応用生物科学専攻博士後期課程2名となっております。

学科の人事に関しては、細野邦昭教授が本年4月1日付で応用生物科学科のスタッフとして着任されました。担当科目は酵素工学、蛋白質実験法、蛋白質化学実験です。現在、先生は精力的に研究・教育指導に当たられておられます。

（司馬 肇）



支 部 だ よ り

山梨県支部の近況

平成12年10月14日に石和観光温泉ホテルにて、山梨県支部総会を開催し、大学側からは茂澤栄校友会長、木村事務局長、県内からは金丸種男県支部長の三名の来賓をお迎えし多数の会員の参加を得て盛会裡に実施できました。議題は経過報告、会計報告、名簿発行特別会計の終結、支部会費の値上げ、役員改選、日大明誠高校災害見舞金の報告等であります。又、10月には関係高校を訪問し、本学部資料を提示



し大学進学について懇談しました。この事は毎年実施しております。更に1月には事務局会議を開き今後の予定について協議し、全会員への文書発送、校友会報の送付等を行っております。

今後の計画としては、広く会員のご意見、ご要望を反映しながら平成15年に理事会、平成17年には20周年の県支部総会を開催する予定です。大学本部、校友会諸先生方の尚一層のご支援、ご鞭撻を衷心よりお願いいたします。

連絡先 〒405-0017
山梨市下神内川187-1
支部長 小越 昭雄
TEL 0553-22-2400

神奈川・生物資源科学部会

今年の関東地方の梅雨明けは、平年より10日も早く、その後は干天・熱暑・炎暑・酷暑・激暑続きの今夏でしたが、会員の皆様にはご健勝のことと存じます。

第83回全国高等学校野球選手権大会は、わが大学の付属日大三高が初の全国制覇という快挙をなすとげ、テレビの前で熱い声援を送った甲斐があったと喜んでおります。高校野球が終わる頃になると秋風



が吹き始めるのが例年の季節のサイクルですが、今年の残暑はこれまた厳しく、台風11号のスピード、進路の気象予報は大はずれ、これも地球温暖化現象の一つでしょうか。自然相手の農業・食料問題に強い関心を有する者の1人として大変気になるこの頃です。

第23回総会・懇親会は、昨年11月18日(土)横浜東口前のシュウマイ日本一の崎陽軒本店4階ダイナスティで開催、日大校友会神奈川支部会長代理川井義一副会長(北村邦彦会長病気療養中のところ今年3月26日逝去、謹んでご冥福をお祈り申し上げます)。また愛媛県松山市へ校務出張中の佐々木恵彦学部長が、羽田空港より会場へ直行、他9名のご来賓と47名の会員が一堂に会し盛会裡に行なわれました。

今年度の第24回総会・懇親会の開催を主たる議題とした役員会を去る8月24日(金)に湘南校舎第2会議室にて開催、長時間にわたる討議の結果、前年と同じ会場(横浜東口駅前)崎陽軒で10月26日(金)開催することに決定しました。改めてご案内申し上げますので、昨年同様友人を誘いあって多数ご出席下さるようお願い申し上げます。

(会長・高坂 鉄雄)

連絡先 〒252-8510
藤沢市亀井野1866
日本大学短期大学部
環境生態学研究室
事務局長 浅野 絃臣
TEL 0466-84-3747

山形県支部の近況

第9回山形県支部総会は平成13年2月12日天童温泉、檜風呂の館「つるや」において本部から茂澤栄校友会会長をはじめ、林慎平校友会福島県支部長、

佐川喜四郎事務長および佐藤正弘日本大学山形高等学校事務長のご出席のもと開催されました。

櫻井麻男副支部長（動資）の開会の辞で始まり、木戸啓二支部長、（植資）挨拶の後、議長に渡部秀実氏（農化）を選任し協議に入り経過報告、会計報告、監査報告及び予算案など一連の協議事項について審議され、満場一致で原案どおり可決承認されました。



当支部では、各学部持ち回りで記念講演を行っており、今回の担当は国際地域開発学科で丹野勉氏（昭55年卒）により「有機栽培に取り組んで」と題して「アイガモ農法」を話していただきました。農業は大きく様変わりし国際化時代を迎え、食料の安全性や環境にやさしい農法がとりざたされているときだけに関心のある内容でした。

最後になりましたが、ご出席いただきました来賓の皆様には心から感謝とお礼を申し上げます。特に茂澤果氏に対しては「学部の近況と校友会の現況」を詳細に話していただき重ねて感謝申し上げます。

（木戸 啓二）

連絡先 〒990-2433
池田 卓郎
山形市鳥居ヶ丘4-55
日本大学山形高等学校内

高知県支部の近況

第13回生物資源科学部高知県支部校友会総会が、平成13年9月8日（土）午後5時30分より高知市の高知会館において開催されました。

出席者はご来賓を含め19名です。まず中西支部会

長より先日出席した小田急ホテルにて総会の模様が報告され、「本支部会の最大の目的である懇親を、大いに深めてください」と挨拶。

続いてご来賓の茂澤本部長より三茶校舎フェイナルイベント、湘南キャンパスの新校舎、森田賢次理事長の校友会会長就任など校友会の近況や今後予定される大きなプロジェクトについてくわしくお話をいただき、「校友会各支部の活発な活動に謝意を表します。」とのお言葉をいただきました。

当支部は毎年大学より先生をお招きしておりますが、本年は国際地域開発学科の井上雅也助教授にご出席いただき、学生時代のおはなしや、「深い知識ではないかもしれないが幅広い知識を必要とする」国際地域開発学科の意義、それにあわせてカリキュラムの改変などをまじえたご祝辞をいただきました。

続いて議事に移り平成12年度事業経過、収支決算が上程されすべて満場一致にて承認。続いて任期満了となる役員の変更では各学部分科会より推薦された3名を新理事として承認し、その他役員は全員留任と決定しました。



続いて13年度活動方針および予算についても了承され総会は終了、続いて懇親会が開催されご来賓をかこんでの和やかな宴となりました。2時間ほどの懇親会も会員持参のテープを大音量でながして全員で日大節と校歌を歌い、再会を誓っての解散となりました。

連絡先 〒780-0084
高知市南御座9-19
事務局 前川 卓也
TEL 088-880-0538

学生の就職活動について

生物資源科学部では、就職指導課と各学科のクラス担任で構成する就職指導委員会が中心となって他の学科・研究室の指導教員と連絡を密に取りながら学部全体が一体となった就職支援体制を取っています。一方、本学（日本大学全体）への求人件数は7,420社で、昨年度に比べ975社の減少となり、厳しい環境となっています。昨今の就職環境の特徴として

1. **就職活動の早期化** 就職協定が廃止され年々早期化が進み、会社説明会に参加した学生が3月の段階で8割を越える。

2. **採用手法の多様化** 終身雇用を前提とした年功序列的な考え方が崩壊し始めており、雇用形態も様々に変化している。そのため、採用手法も「職種別採用」「中途採用」「年俸制」等多様化している。

3. **採用活動の長期化** 「通年採用」「春秋採用」を導入する企業が増え、採用活動は長期化している。

4. **「量」より「質」の採用** 採用計画数に達しなくても水準は下げたくないとする企業が増えており、「量」より「質」を重視。

5. **エントリーシート（書類選考）** 企業に応募する際、エントリーシートを提出させる企業が多い。内容が多岐にわたっており、相当な企業研究・自己分析をした学生でないと応募出来ないものも多数ある。

6. **インターネット利用** 本学部では、86.9%の学生が「自宅にインターネット環境がある」と回答（昨年72.0%、一昨年49.0%）メールアドレスの個人保有率は91.1%。

7. **誓約書・承諾書問題** 昨年も問題になったが、学生から誓約書を提出させる企業が増。内定後も活動を続けたい学生からの相談が多数あった。

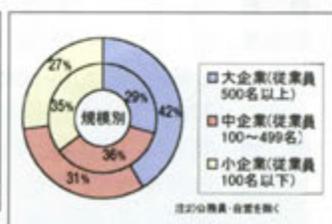
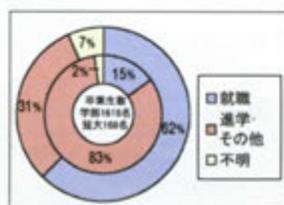
8. **男女雇用機会均等法** 「募集・採用」においても男女差別が禁止されたが、法的な改正

に沿った採用を行う企業がある反面、見せかけだけの対応を行う企業が多いことも事実で、女子学生からの不満もある。

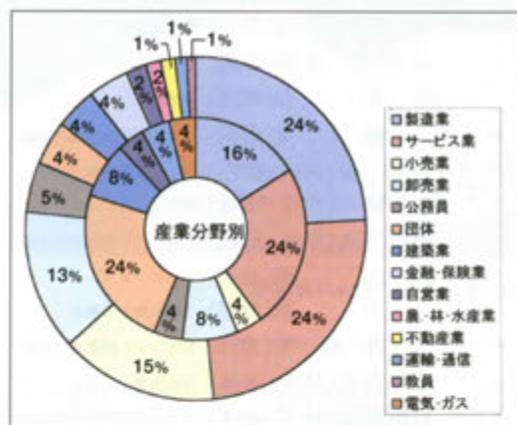
9. **学生の就職観の変化** 「能力主義」を歓迎する一方、「すぐに就職しなくて良い」「フリーター希望」も年々増加している。

10. **理系の推薦制の崩壊** 従来、理系学生は研究室・教員の推薦で就職を決定する例も多くみられたが、企業側が推薦制度を削減・廃止し、ほとんどの学生が自由応募で就職する状況となった。

しかし、厳しい就職環境の今こそ、在学生はOB・OG諸氏による支援を期待しているものと思われる。 就職指導課



注1) 円グラフの内側は短期大学部
外側が生物資源学部を示す。



校 友 便 り

「2代の日大」

昭和50年度農業工学科卒業 松橋 久光
秋 田 県 農 政 部



長男が今春「生物資源科学部」に入学した。私も、同学部を25年前に卒業したことにより、奇しくも親子2代となった。

実は昨年の夏に志望大学の参考のために都内の大

学を見学に来京した。その時、息子の希望で、私の卒業学舎を見に、2人で六会を訪れたのが縁の始まりかもしれない。

振り返れば在学当時、学術部連盟の創設に携わった関係で、今でも毎年学園祭の招待状が届けられる。内心非常にうれしいものである。三茶での学園祭にはたびたび参加させてもらっているし、度々学部におじゃましては先生方と杯を交わしているが、湘南校舎での学園祭は一度もない。これを機会に、一度は伺いたいと思う。校友の皆様も、気軽に学部へ足を運び、今時の大学生がどんなものか見てみるのも一考ではないかと思う。一瞬の異次元体験が可能かも。

さて、今年8月16日～26日まで、第6回ワールドゲームが秋田県で開催され、大会は大成功の内に閉会した。81カ国4千人もの選手が秋田に集まり、町は国際色に染まった感があった。我々の部署はもちろんのこと県内4千人ものボランティアが集まり、

会場内のゴミ拾い、イスの後片づけ、パンフレット配り、花壇の水やり、そして何より各国の人と汗かくで接していたことに感激した。

若者が自分の意志で集い、誰でも出来ることを協力する。大会終了時の満足感！現代会社のシステムではなかなか手に入れにくい体験に違いないと思う。息子も、帰省した折会場を訪れ、外国の選手と話をして来たらしく感激していた。家庭では見られない子供らの姿がそこにはあった。日本の国際化が叫ばれて久しいが、積極的に参加することの意義を強く感じるとともに大学での取組みへの期待感を強く思った。

最後に、学部の益々のご発展をお祈り申し上げます。

日本大学生物資源科学部・農獣医学部校友会役員・事務局名簿

名誉会長	佐々木 恵彦	〃	関村具由(食工・食科)
会長	茂 澤 果(農化)	〃	稗貫 峻(食工・食科)
副会長	冨 澤 寿 樹(短農)	〃	竹永章生(食工・食科)
〃	近藤良三郎(拓植・国際)	〃	水野包男(拓植・国際)
〃	村田 昇(農工・環工)	〃	浜口喜博(拓植・国際)
幹 事	楠元 守(農学・植物)	〃	鈴木 勝 春(短農)
〃	浅川廣治(農学・植物)	〃	富 樫 利 男(短農)
〃	勝野武彦(農学・植物)	〃	岡 崎 祥 子(短生)
〃	江 刺 琢 磨(農化)	〃	清 水 由 佳(短生)
〃	木 嶋 弘 倫(農化)	〃	飯 塚 統(短生)
〃	日比野 次郎(獣医)	〃	大 谷 憲 司(応生)
〃	鳥 海 弘(獣医)	〃	飯 塚 崇(応生)
〃	月 瀬 東(獣医)	〃	長 岐 清 孝(応生)
〃	岩間 脩(畜産・動物)	監 査	山 根 勝 次(食経)
〃	内田駿一(畜産・動物)	〃	西山栄一(農学・植物)
〃	遠藤 克(畜産・動物)	〃	濱本和敏(林学・森林)
〃	村 山 進(食経)	監 査 員	水 野 包 男(拓植)
〃	千 田 徹(食経)	〃	小 泉 香 織(短生)
〃	下 渡 敏 治(食経)	〃	江 刺 琢 磨(農化)
〃	宮島吉夫(林学・森林)	【事務局】	
〃	石垣逸朗(林学・森林)	事務局長	木村貞司(畜産・動物)
〃	竹内 均(水産・海洋)	局 員	本江一郎(林学・森林)
〃	櫻木 進(水産・海洋)	〃	世良田和寛(農工・環工)
〃	小橋二夫(水産・海洋)	〃	丹羽美次(畜産・動物)
〃	鈴木昌二(農工・環工)	〃	千野 誠(食工・食科)
〃	斎藤公三(農工・環工)		

会報編集委員

農学	学 校 友 会	会 会 会	井 上 弘 明	工 水 会 会 会	古 原 藤 野 好
業 業 業	友 友 友	会 会 会	上 山 一 郎	学 学 学	西 西 西
角 角 角	友 友 友	会 会 会	丸 山 一 郎	友 友 友	阿 阿 阿
満 満 満	友 友 友	会 会 会	岡 田 一 郎	会 会 会	崎 崎 崎
い も づ な ろ	友 友 友	会 会 会	島 野 一 郎	会 会 会	方 方 方
あ す な ろ	友 友 友	会 会 会	宮 野 一 郎	会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎
				会 会 会	方 方 方
				会 会 会	野 野 野
				会 会 会	川 川 川
				会 会 会	阿 阿 阿
				会 会 会	崎 崎 崎